

音象徴日英比較

—— 日本語話者と英語オノマトペ ——

城 戸 真由美

1. 序

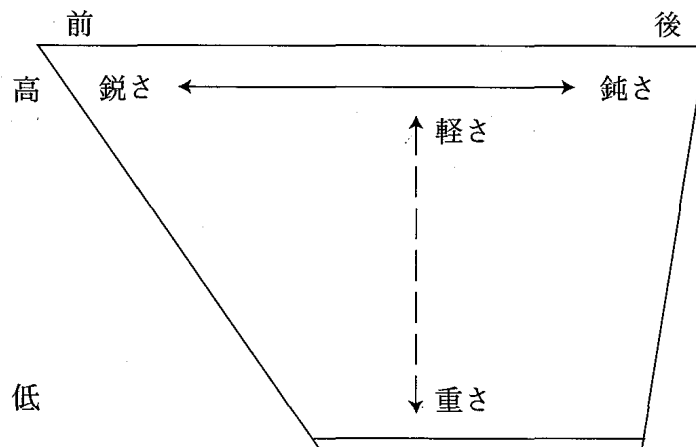
語の音と意味との間に直接的な関連性が存在するののかという音象徴の存在性については様々な議論があるが、自然界の音や状態を言語音で表す擬音語や擬態語においては数多くの音象徴の例が見受けられる。

これまで、英語のオノマトペに見られる音象徴の一般的傾向をまとめる試みをしてきた。調音様式ごとの分類は表1の通りである。また、調音位置が前方の場合は鋭く、後方の場合には鈍く感じ、口腔が狭いほど軽く、口腔が広いほど重く感じる傾向がある。(図1参照) この調音様式と調音位置の特徴を重ね合わせることで語の音と意味に関連性が生まれる。

表1 調音様式による音象徴

調音様式	意味
破裂音 /p, b, t, d, k, g/	破裂性
摩擦音 /f, v, θ, ð, s, z, ʃ, ʒ, h/	摩擦性
破擦音 /tʃ, dʒ/	はずみ
鼻音 /m, n, ŋ/	継続性
流音 /l, r/	運動
わたり音 /j, w, hw/	振動

図1 調音位置による音象徴



この英語における音象徴の傾向が日本語話者にも共通するのかを調査するため、アンケートを実施した。学生168名に50問の回答を依頼した。イラストや文章で場面状況を示し、研究者が英語のオノマトペ2語を音読して聞かせ、状況にふさわしいと思う方を被験者に直感で選んでもらうというものである。

本研究の重点は、英語本来の意味と被験者の回答がどの程度一致しているか、どの音素・調音様式・調音位置において一致及び不一致が著しいかという点である。

2. 先行研究

2.1. 田守／スコウラップ (1999)

田守／スコウラップ (1999) は日英語オノマトペを意味的側面から比較・検討している。唇音と「肥満」がどの程度関係しているか、「肥満」と関連するすべての英単語および日本語オノマトペを挙げて考察している。日英語とも「肥満」を表す語に唇閉鎖子音と円唇母音を広範に利用しているという。(表2参照) 具体的な語例としては、英語には abdominous, bulky, fatso, overblown, puffy, stocky など、日本語には boteQ, fuku-fuku, pochaQ, zunNguri

などがある。

表2 「肥満」語における唇音の発生率

	英 語	日本語
唇音の総数	83	42
閉鎖子音	36 (=43%)	12 (=29%)
摩擦子音	9 (=11%)	1 (=2%)
鼻音	6 (=7%)	3 (=7%)
母音/半母音	32 (=39%)	26 (=62%)

その反対の「瘦身」を表す語を比較してみると、唇子音を含む語は英語では少数、日本語ではまったく含まれていないという。(表3参照)

表3 1語あたりに含まれている唇子音の数

	肥満語	瘦身語
英 語	1.1 (51/47)	0.4 (9/21)
日本語	0.9 (16/18)	0 (0/6)
計	1.0 (67/65)	0.3 (9/27)

肥満と唇音性の対応は類像性に由来し、唇音性は口を尖らせたり唇をすぼめたりすることとの関わりが多い。唇を閉じたり、両唇を近づけ合ったりするだけで、口腔に球状の空洞がつけられ、それ自体肥満を示唆していると考えられる。

肥満と関連する日本語オノマトペに見られる母音/u/の多く(12/20)が唇子音のすぐ後に見られるが、瘦身語では0/3である。また、日本語の肥満語には隣接して起こる唇音の大多数(30/42)が他の唇音と隣接しているが、瘦身語では0/6である。英語の肥満語には隣接して起こる唇音の例は17例あるのに対し、瘦身語にはたった1例(rawboned)しかない。このことは、日英両言語において隣接する唇音要素が特に肥満の象徴として重要であることを示唆している。

肥満・突出と唇音性との音象徴以外にも、日英語に共通した音象徴の例を挙げている。水しぶきを表す語のほとんどすべてが、両唇閉鎖音 (bilabial stop) と粗擦音 (sibilant) の両方を含んでいる。乾燥したものが触れ合う音を表す語のほとんどが粗擦音を含んでいる。音や動作の急な終わり方は、英語の場合は語末の無声閉鎖音で表されることが多く、日本語の場合は口腔閉鎖音が語末に起こらないため無声声門閉鎖音 (促音) が広く用いられる。

2.2. Hamano (1986)

Hamano (1986) は、オノマトペ語彙に関する限り、特定の音ないし音の組み合わせが特定可能な音象徴的意味を持っており、日本語の音象徴が体系的であると言う。語頭子音は物体の感触や分量、あるいは人間の発声器官を通して、動きや動きに伴う前提条件を主に示す。(表4 参照)

表4 語頭子音における音声と意味の相関

語頭子音	意 味	語 例
/p, b/	表面がピンと張ったものに対する打撃や爆発などの急で爆発的な動きや出来事	ピン, パンパン, バーッ, ブーツ
/t, d/	木材・床・地面や表面がゆるいものに対する打撃	タントン, トントン, ダーン, ドンドン
/k, g/	金属などの硬い表面, 深さ, 後方, 咽頭音	キンコンカンコン, キーキー, ガンガン, ギーギー
/s, z/	なめらかな動き, 継続的な動きや音	シューシュー, ソッ, ザーザー, ジン
/h/	呼吸, 爆発的ではない息の吐き出し	フッ, ホッ
/m, n/	抑圧, 曖昧さ	ムッ, ムンムン, ニュッ, ニッ
/w/	人間・動物の叫び声, 感情の激変	ワーン, ワイワイ

また、無声音は「軽い, 小さい, 繊細」を意味し、有声音は「重い, 大きい, 粗い」を象徴する傾向が見られる。これらの日本語オノマトペに見る音象徴は英語オノマトペの音象徴 (表1・図1) と重なる点が多い。

3. アンケート調査

3.1. アンケートの形態

日本語と英語において共通の音象徴は存在するのか、日本語話者が英語のオノマトペに共感するのかどうかを探るべく、独自のアンケートの実施を試みた。本学学生を対象とし、人文学部76名（現代文化学科42名・表現学科34名）と人間関係学部92名（心理学科46名・子ども発達学科46名）の計168名に回答を依頼した。ほとんどが1年生だが、3年生1名、中国人留学生1名を含んでいる。被験者の英語学習歴と海外経験は以下の通りである。（表5・6参照）

表5 被験者の英語学習歴

期 間	人 数	場 所	人 数
中学から	125 (74.4%)	学校のみ	86 (51.2%)
小学6年から	14 (8.3%)	塾	49 (29.2%)
5年から	2 (1.2%)	英会話教室	35 (20.8%)
4年から	3 (1.8%)	部活 (ESS)	1 (0.6%)
3年から	5 (3.0%)	その他	2 (1.2%)
2年から	3 (1.8%)		
1年から	2 (1.2%)		
小学校入学前から	14 (8.3%)		
合 計	168	合計 (のべ)	173

表6 被験者の海外経験

国名 \ 期間	3年半	1年半	1年	3ヶ月	2ヶ月	1ヶ月	2・3週間
US			1			1	
UK				1			
Canada							1
Australia				1	1	1	6
New Zealand				1			1
Singapore	1						1
China							1
Japan		1					

英語学習期間は中学から開始したという被験者は74.4%で、残りは小学生の頃や小学校入学前から英語に接した経験がある。小学生時・入学前に開始したといっても、ずっと継続して学習していたとは限らない。英会話教室に通うのを途中で辞め、数年のブランクを経て中学で再開したという者も含まれている。学習場所としては学校のみと、塾・英会話教室が2分している。塾と英会話教室を2箇所掛け持ちで通っていた者が5名いたため、合計がのべ人数となっている。海外経験については短期間の旅行を除いている。17名からの回答を得たが、そのうち2名は2カ国に行った経験がある。日本と答えたのは中国人留学生である。期間に注目すると、3ヶ月以下がほとんどで、休暇を利用してホームステイや語学研修に参加している。年単位は3名にすぎない。上記の英語学習の背景から、被験者の英語能力がまだ発達途中であることがわかる。

問題は50問、Part IとIIから成る。Part Iには20問を用意した。スクリーンにイラストを映し出して、場面状況を示した。それから研究者が英語のオノマトペ2語を音読して聞かせて、そのイラストの状況にふさわしいと思うオノマトペを被験者に選んでもらった。1コマ漫画を用いて、効果音や噴出しにあるオノマトペを消してイラストのみを示した。イラストのどの部分に注目すべきなのか、指で指し示しながら回答を促した。イラストは『漫画で楽しむ英語擬音語辞典』（松田徳一郎監修、研究社、1985）からの抜粋である。

Part IIには30問を用意した。場面状況についてはアンケート用紙に文で示して黙読させた。それから研究者が英語のオノマトペ2語を音読して聞かせて、その状況にふさわしいと思うオノマトペを被験者に選んでもらった。

回答は全て二者択一で、選択肢は全て minimal pair である。被験者には単語のつづりは示さずに研究者の発音のみを聞いて選んでもらった。片方の選択肢は場面状況に一致する英語のオノマトペである。もう一方は場面状況に一致しない語もしくは実在しない語で、調音様式・調音位置の異なる音素を含む語を用意した。/l, r/や/b, v/など、聞き分けが難しいと思われる組み合

わせは避け、明らかに区別がつくように選択肢を設定した。被験者には辞書の使用を禁じ、直感で答えてもらうよう、制限時間を1問あたり10秒程度とした。

3.2. アンケート集計結果

被験者の全回答を集計した結果、英語本来の意味と一致する回答は50問中28問が平均で、最高37問、最低18問であった。英語本来の意味と被験者の回答との一致が過半数を超えたのは、全50問中31問であった。（表7・表8参照）数値は一致が過半数を占めるものを太文字に、10票差未満でかろうじて過半数であるものには波線を、半数以下のものには星印を記している。

表7 Part I：スクリーンにイラストを映し出し、その状況に合う語を選ぶ問題

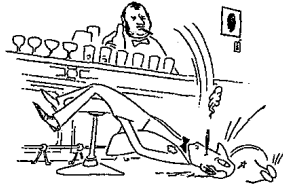
語頭子音の調音様式および調音位置		意味	一致回答		不一致回答		無効票
破 裂	両唇	1. 息を切らす	pant	91 (54.2%)	shant	77 (45.8%)	0
		2. 落ちる, 不意の強打	plunk	*64 (38.1%)	slunk	104 (61.9%)	0
	歯茎	3. 弓を引いて矢を放つ	twang	141 (83.9%)	zwang	27 (16.1%)	0
		4. らっぱを吹く	toot	134 (79.8%)	yoot	34 (20.2%)	0
	硬口蓋	5. くすぐる時の発声	kitchy	126 (75.0%)	litchy	42 (25.0%)	0
		6. むさぼり食う	gobble	145 (86.3%)	wobble	23 (13.7%)	0
		7. クスクス笑う	giggle	*57 (33.9%)	miggle	111 (66.1%)	0
摩 擦	歯間	8. 鈍い打撃音	thump	86 (51.2%)	chump	82 (48.8%)	0
	歯茎	9. 液体をすする時の音	sip	98 (58.3%)	gyp	70 (41.7%)	0
		10. ため息をつく	sigh	*60 (35.7%)	rye	108 (64.3%)	0
		11. 空を切る音, すばや い動き	zip	*74 (44.0%)	pip	94 (56.0%)	0
破 擦	歯茎	12. かみつく	chomp	87 (51.8%)	romp	80 (47.6%)	1
	硬口蓋	13. 恐怖で歯が鳴る	chatter	*39 (23.2%)	gatter	129 (76.8%)	0
鼻	両唇	14. ムシャムシャ食う	munch	*83 (49.4%)	runch	85 (50.6%)	0

流	歯 茎	15. ひと跳び	leap	112 (66.7%)	cheep	56 (33.3%)	0	
		16. 裂く・破く・はがす音	rip	*80 (47.6%)	whip	88 (52.4%)	0	
		17. 木の葉の音	rustle	102 (60.7%)	bustle	66 (39.3%)	0	
わたり	硬口蓋	18. 嫌悪・不快の発声	yuck	129 (76.8%)	puck	39 (23.2%)	0	
		両 唇	19. 空中をすっと飛ぶ音	whee	133 (79.2%)	gee	35 (20.8%)	0
			20. 液体の噴出	whoosh	139 (82.7%)	moosh	28 (16.7%)	1

1.



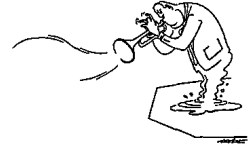
2.



3.



4.



5.



6.



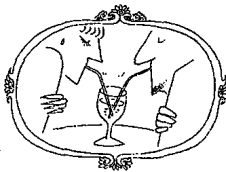
7.



8.



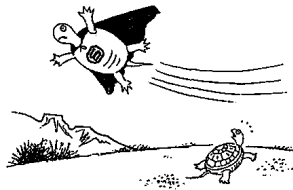
9.



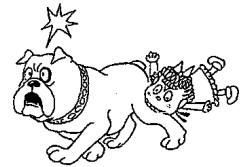
10.



11.



12.



13.



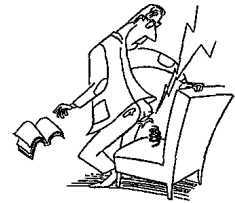
14.



15.



16.



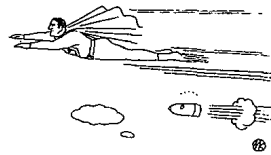
17.



18.



19.



20.



表8 Part II : 文章による状況説明を読んで、その状況に合う語を選ぶ問題

語頭子音の調音様式および調音位置		意味	一致回答		不一致回答		無効票	
破 裂	両唇	1. ながる・打つ・たたく	biff	131 (78.0%)	chiff	37 (22.0%)	0	
		2. 吐く・もどす	barf	129 (76.8%)	narf	39 (23.2%)	0	
	歯茎	3. 軽く触れる・つつく	dab	*67 (39.9%)	jab	101 (60.1%)	0	
		4. ぶらさがる	dangle	*24 (14.3%)	wrangle	144 (85.7%)	0	
	軟口蓋	5. きしる音・きしみ	creak	<u>86</u> (51.1%)	freak	80 (47.6%)	2	
摩	唇歯	6. 安堵・疲労・驚き・いらだち・不快・嫌悪などで息を吹く音	phew	105 (62.5%)	Jew	62 (36.9%)	1	
		7. もじもじする・そわそわする	fidge	95 (56.5%)	ridge	73 (43.5%)	0	
		8. すばやく穴にもぐり込む時の様子	voop	*76 (45.2%)	whoop	92 (54.8%)	0	
			9. 銃弾がかすめ飛んだり鋭くあたってはね返る時の音	vip	112 (66.7%)	nip	56 (33.3%)	0
	擦	歯間	10. 平たい板で打つ	thwack	*42 (25.0%)	quake	123 (73.2%)	3
歯茎		11. 銃声・不意の一撃・魔法などによる瞬間的变化・突然の動き	zap	103 (61.3%)	yap	63 (37.5%)	2	
			12. 風を切るすばやい動き	shoof	122 (72.6%)	foof	45 (26.8%)	1
硬口蓋		13. ためらう・ぐずぐずする	shilly-shally	*50 (29.8%)	willy-wally	117 (69.6%)	1	

摩擦	声門	14. ヘビの出す音	hiss	88 (52.4%)	liss	79 (47.0%)	1
		15. ざらざらした・粗い	harsh	98 (58.3%)	marsh	70 (41.7%)	0
破擦	歯茎	16. 小鳥のさえずり	chirp	151 (89.9%)	wirp	17 (10.1%)	0
	硬口蓋	17. いらだち・神経質	jimjams	*76 (45.2%)	vimvams	92 (54.8%)	0
		18. サルが叫ぶ	jabber	*45 (26.8%)	shabber	123 (73.2%)	0
		19. 急に動かす・グイと引く	jerk	91 (54.2%)	nerk	77 (45.8%)	0
鼻	両唇	20. 苦痛・悲しみのうめき声	moan	107 (63.7%)	joan	61 (36.3%)	0
		21. ごたまぜ	mingle-mangle	*80 (47.6%)	tingle-tangle	87 (51.8%)	1
	歯茎	22. 馬のいなく声	neigh	*60 (35.7%)	feigh	107 (63.7%)	1
		23. しゃべる・不平を言う	natter	90 (53.6%)	hatter	77 (45.8%)	1
流	歯茎	24. 舌を垂らす・もたれ掛かる	loll	117 (69.6%)	moll	50 (29.8%)	1
		25. 木の葉・波の音	lisp	*74 (44.0%)	fisp	94 (56.0%)	0
		26. ゆさぶって音をたてる	rattle	109 (64.9%)	tattle	59 (35.1%)	0
わたり	硬口蓋	27. 泣きわめく・遠吠えする	yowl	97 (57.7%)	dowl	71 (42.3%)	0
		28. 大喜び・得意・高揚の発声	yippee	119 (70.8%)	lippee	48 (28.6%)	1
	両唇	29. 小刻みに動かす・ゆする	wingle-wangle	*80 (47.6%)	higgle-haggle	86 (51.2%)	2
		30. よろめく・動揺する	wobble	102 (60.7%)	nobble	63 (37.5%)	3

状況説明をイラストで示した Part I と、文章で示した Part II とでは一致率に相違が見られる。(表9参照)

表9 Part I と Part II の一致率比較

	Part I	Part II
一致率が50%以上の項目数	13/20 (65.0%)	19/30 (63.3%)
一致率が70%以上の項目数	7/20 (35.0%)	5/30 (16.7%)
一致率が80%以上の項目数	3/20 (15.0%)	1/30 (3.3%)

一致率が50%以上の項目数の割合は Part I・Part II とともに60%台で、ほぼ同じという結果が出た。しかし70%・80%となると、Part I と Part II の差が開き、Part I の方が高い数値が出ている。これは文章よりもイラストを使った場合の方が、一目で状況が掴めて回答しやすいということであろう。また、2つの選択肢の対立のしかたにも大いに関わっているものと思われる。対立する音素については4章で詳しく考察する。

4. アンケート集計結果の分析

4.1. 調音様式ごとの分析

4.1.1. 破裂音

表10 破裂音12組（一致8組・不一致4組）

破 裂	両唇	I-1. 息を切らす	pant	91 (54.2%)	shant (摩擦)	77 (45.8%)
		I-2. 落ちる, 不意の強打	plunk	*64 (38.1%)	slunk (摩擦)	104 (61.9%)
		II-1. ながる・打つ・たたく	biff	131 (78.0%)	chiff (破擦)	37 (22.0%)
		II-2. 吐く・もどす	barf	129 (76.8%)	narf (鼻)	39 (23.2%)
	歯茎	I-3. 弓を引いて矢を放つ	twang	141 (83.9%)	zwang (摩擦)	27 (16.1%)
		I-4. らっぱを吹く	toot	134 (79.8%)	yoot (わたり)	34 (20.2%)
		II-3. 軽く触れる・つつく	dab	*67 (39.9%)	jab (破擦)	101 (60.1%)
		II-4. ぶらさがる	dangle	*24 (14.3%)	wrangle (流)	144 (85.7%)
	硬口蓋	I-5. くすぐる時の発声	kitchy	126 (75.0%)	litchy (流)	42 (25.0%)
		II-5. きしる音・きしみ	creak	86 (51.1%)	freak (摩擦)	80 (47.6%)
		I-6. むさぼり食う	gobble	145 (86.3%)	wobble(わたり)	23 (13.7%)
		I-7. クスクス笑う	giggle	*57 (33.9%)	miggle (鼻)	111 (66.1%)

表中のナンバリングは、ローマ数字が Part I・II の区別、アラビア数字は Part 内での問題番号を示す。

4.1.1.1. 一致が優勢な場合

12組中8組(67%)において、英語本来の意味と一致する選択肢を選んだ回答が不一致を上回っている。そのうち100票以上獲得の圧倒的優勢を示しているのは、biff : chiff, barf : narf, twang : zwang, toot : yoot, kitchy : litchy, gobble : wobble の6組である。pant : shant はやや優勢, creak : freak はかろうじて優勢である。

一致に圧倒的な優勢の結果が得られた組において、biff は「バシッ, ビシッ, ボカッ, ボカン, バン」, kitchy は「コチョコチョコ」, gobble は「ガツガツ, ガブリ」という日本語オノマトペの子音と重なるので、両言語の音象徴が共通するのも当然と思える。barf 「吐く・もどす」・pant 「息を切らす」・toot 「らっぱを吹く」では口から放出する勢いを意味し、twang 「弓を引いて矢を放つ」に関しては瞬間的放出を意味し、破裂音がふさわしいと感じるのであろう。票が割れた creak : freak は、無声音/k, f/と高母音/i:/の組み合わせで、他に比べて判断しにくかったのかもしれない。

4.1.1.2. 不一致が優勢な場合

plunk : slunk, dab : jab, dangle : wrangle, giggle : miggie の4組においては不一致に優勢の結果が出ている。dangle : wrangle では攻撃的な破裂音/d/よりも流音/r/の柔らかさに「ぶらさがる」という意味を連想し、giggle : miggie では大きく響く破裂音/g/よりも鼻音/m/のこもりに「クスクス笑う」という意味を連想して選んだのかもしれない。

4.1.1.3. 対立する語頭子音

各組の語頭子音の調音様式に注目してみる。わたり音との対立 toot : yoot と gobble : wobble では2組中2組とも一致が圧倒的な優勢である。摩擦音,

破擦音、鼻音、流音との対立においては、一致の優勢と不一致の優勢が5分5分である。plunk・dab は共に衝撃音を表すが、衝撃の度合いによって破裂音・摩擦音・破擦音のいずれがふさわしいかを識別するのは難しいようである。

4.1.2. 摩擦音

表11 摩擦音14組（一致9組・不一致5組）

破裂	唇 歯	II-6. 安堵・疲労・驚き・いらだち・不快・嫌悪などで息を吹く音	phew	105 (62.5%)	Jew (破擦)	62 (36.9%)
		II-7. もじもじする・そわそわする	fidge	95 (56.5%)	ridge (流)	73 (43.5%)
		II-8. すばやく穴にもぐり込む時の様子	voop	*76 (45.2%)	whoop (摩擦)	92 (54.8%)
		II-9. 銃弾がかすめ飛んだり鋭くあたってはね返る時の音	vip	112 (66.7%)	nip (鼻)	56 (33.3%)
	歯 間	I-8. 鈍い打撃音	thump	<u>86</u> (51.2%)	chump (破擦)	82 (48.8%)
		II-10. 平たい板で打つ	thwack	*42 (25.0%)	quake (破裂)	123 (73.2%)
	歯 茎	I-9. 液体をすすする時の音	sip	98 (58.3%)	gyp (破擦)	70 (41.7%)
		I-10. ため息をつく	sigh	*60 (35.7%)	rye (流)	108 (64.3%)
		II-11. 銃声・不意の一撃・魔法などによる瞬間的変化・突然の動き	zap	103 (61.3%)	yap (わたり)	63 (37.5%)
		I-11. 空を切る音, すばやい動き	zip	*74 (44.0%)	pip (破裂)	94 (56.0%)
	歯 茎 硬口蓋	II-12. 風を切るすばやい動き	shoof	122 (72.6%)	foof (摩擦)	45 (26.8%)
		II-13. ためらう・ぐずぐずする	shilly-shally	*50 (29.8%)	willy-wally (わたり)	117 (69.6%)
	声 門	II-14. ヘビの出す音	hiss	<u>88</u> (52.4%)	liss (流)	79 (47.0%)
		II-15. ざらざらした・粗い	harsh	98 (58.3%)	marsh (鼻)	70 (41.7%)

4.1.2.1. 一致が優勢な場合

14組中9組(64%)において、英語の意味と一致するという回答が過半数を占めている。そのうち20票以上の差をつけての優勢は *phew* : *Jew*, *fidge* : *ridge*, *vip* : *nip*, *sip* : *gyp*, *zap* : *yap*, *shoof* : *foof*, *harsh* : *marsh* の7組である。*thump* : *chump*, *hiss* : *liss* の2組ではかろうじて優勢である。

一致に圧倒的な優勢の結果が得られた組において、*phew* は「ヒュー、フーツ、ヒャー」、*fidge* 「そわそわする」、*sip* 「スツ、ズツ、スーツ、ツーツ、すする、吸う」、*harsh* 「ざらざら」といった日本語のオノマトペに摩擦音が含まれているので、両言語共通の音象徴があると言える。*vip*・*zap*・*shoof* については3語とも空を切る突然の動きを意味し、摩擦音で表すのがふさわしいと感じるようである。

4.1.2.2. 不一致が優勢な場合

voop : *whoop*, *thwack* : *quake*, *sigh* : *rye*, *zip* : *pip*, *shilly-shally* : *willy-wally* の5組においては劣勢である。*sigh*・*shilly-shally* と若干優勢の *hiss* については、他の摩擦音で始まる語に比べて意味に激しさをあまり感じないようである。対抗する選択肢が流音・わたり音であるところを見ると、流音の運動、わたり音の振動という音象徴からこのような回答に至ったのかもしれない。

(表1参照)

4.1.2.3. 対立する語頭子音

各組の語頭子音の調音様式に注目してみる。鼻音との対立 *vip* : *nip* と *harsh* : *marsh* では、2組中2組とも優勢である。破擦音との対立 *phew* : *Jew*, *thump* : *chump*, *sip* : *gyp* も3組中3組が優勢である。摩擦音、わたり音との対立では5分5分である。流音との対立については3組それぞれ異なった結果が出ており、一致の優勢、一致のやや優勢、不一致の優勢が見られる。破裂音との対立では2組中2組とも劣勢である。しかし、同じく素早い動きを示す *voop*・*zip* や、衝撃音を表す *thump*・*thwack* では劣勢か若干の優勢と

いう結果が出ている。これは4.1.1.3.でも述べたように、もう一方の選択肢が破裂音・摩擦音である場合、どちらが適当であるか判別するのは難しいものと思われる。

4.1.3. 破擦音

表12 破擦音6組（一致3組・不一致3組）

破 擦	歯 茎	I-12. かみつく	chomp	<u>87</u> (51.8%)	romp (流)	80 (47.6%)
	硬口蓋	I-13. 恐怖で歯が鳴る	chatter	*39 (23.2%)	gatter (破裂)	129 (76.8%)
		II-16. 小鳥のさえずり	chirp	151 (89.9%)	wirp (わたり)	17 (10.1%)
		II-17. いらだち・ 神経質	jimjams	*76 (45.2%)	vimvams (摩擦)	92 (54.8%)
		II-18. サルが叫ぶ	jabber	*45 (26.8%)	shabber (摩擦)	123 (73.2%)
		II-19. 急に動かす・ グイと引く	jerk	91 (54.2%)	nerk (鼻)	77 (45.8%)

4.1.3.1. 一致が優勢な場合

6組中3組（50%）で、英語の意味と一致するという意見が半数を超えている。chirp : wirp では圧倒的優勢、jerk : nerk ではやや優勢、chomp : romp ではかろうじて優勢である。chirp は「チュツ、チュンチュン、チッチッ、チーチー」という日本語オノマトペと同じ語頭子音であるため、納得の結果である。jerk の場合は、鼻音/n/の柔らかい音よりも急な動きを表すのに適切であると判断したものと思われる。

4.1.3.2. 不一致が優勢な場合

劣勢の3組では、chatter : gatter と jabber : shabber において圧倒的劣勢、jimjams : vimvams ではやや劣勢の結果となっている。まず chatter : gatter の場合、gatter から「ガタガタ」を連想して chatter を上回る回答が集まったのであろう。jabber : shabber と jimjams : vimvams では、やはり摩擦音と破擦音との区別はつきにくいようである。（4.1.1.3.参照）

4.1.4. 鼻音

表13 鼻音5組（一致2組・不一致3組）

鼻	両唇	I-14. ムシャムシャ 食う	munch	*83 (49.4%)	runch (流)	85 (50.6%)
		II-20. 苦痛・悲しみ のうめき声	moan	107 (63.7%)	joan (破擦)	61 (36.3%)
		II-21. ごたまぜ	mingle- mangle	*80 (47.6%)	tingle- tangle (破裂)	87 (51.8%)
	歯茎	II-22. 馬のいなく声	neigh	*60 (35.7%)	feigh (摩擦)	107 (63.7%)
		II-23. シャべる・不 平を言う	natter	90 (53.6%)	hatter (摩擦)	77 (45.8%)

4.1.4.1. 一致が優勢な場合

英語の意味との一致が不一致を上回る回答を得られたのは、5組中2組のみであった。moanは「うめく・うなる・もだえる」に鼻音が含まれているため、共通の音象徴があると言えよう。natterの場合は、ぶつぶつ不平を言う潔くない様子には/n/がふさわしいと感じるからだと思われる。

4.1.4.2. 不一致が優勢な場合

不一致の回答数が上回っている3組のうち、最も票差の激しいのはneigh : feighである。「いなく」に/n/が含まれていること、実際の鳴き声が鼻にかかった声であることを考えると、neighに回答が集まっても良さそうだが、日本語オノマトペの「ヒヒーン」にハ行が含まれているためfeighを選んだのであろう。また、munch : runchについては、4.1.3.に挙げたchomp : rompとの共通点が窺える。両組とも口の動きを意味し、不一致となる選択肢の語頭が/r/である。被験者は/r/に口の動きを感じるようだ。

4.1.5. 流音

表14 流音6組（一致4組・不一致2組）

流	歯 茎	I -15. ひと跳び	leap	112 (66.7%)	cheep (破擦)	56 (33.3%)
		II -24. 舌を垂らす・ もたれ掛かる	loll	117 (69.6%)	moll (鼻)	50 (29.8%)
		II -25. 木の葉・波の音	lisp	*74 (44.0%)	fisp (摩擦)	94 (56.0%)
		I -16. 裂く・破く・ はがす音	rip	*80 (47.6%)	whip (わたり)	88 (52.4%)
		I -17. 木の葉の音	rustle	102 (60.7%)	bustle (破裂)	66 (39.3%)
		II -26. ゆさぶって音 をたてる	rattle	109 (64.9%)	tattle (破裂)	59 (35.1%)

4.1.5.1. 一致が優勢な場合

6組中4組（67%）において、英語の意味との一致が100票以上を集めて、不一致を引き離している。leapには滑らかな動きを思い浮かべ、lollには発音時に舌を実際に動かすために関連性を感じているのだろう。rustle・rattleについては、どちらとも不一致の選択肢の破裂音に勝っているところを見ると、やや静かな雑音を意味するのにふさわしいという判断からではないだろうか。

4.1.5.2. 不一致が優勢な場合

不一致の回答が過半数を超えた2組のうち lisp : fisp に注目する。同じく木の葉の音を表す rustle は bustle を上回っているが、lisp が fisp に下回っているのはなぜなのか。bustle は破裂音であり、fisp は摩擦音である。破裂音ほどの衝撃はないが、葉と葉が触れ合う音に摩擦性を感じてこのような回答が得られたのだと思われる。

4.1.6. わたり音

表15 わたり音7組（一致6組・不一致1組）

わ た り	硬口蓋	I -18. 嫌悪・不快の 発声	yuck	129 (76.8%)	puck (破裂)	39 (23.2%)
		II -27. 泣きわめく・ 遠吠えする	yowl	97 (57.7%)	dowl (破裂)	71 (42.3%)
		II -28. 大喜び・得意・ 高揚の発声	yippee	119 (70.8%)	lippee (流)	48 (28.6%)
	両唇	I -19. 空中をすっと 飛ぶ音	whee	133 (79.2%)	gee (破擦)	35 (20.8%)
		I -20. 液体の噴出	whoosh	139 (82.7%)	moosh (鼻)	28 (16.7%)
		II -29. 小刻みに動か す・ゆする	wingle- wangle	*80 (47.6%)	higgle- haggle (摩擦)	86 (51.2%)
		II -30. よろめく・動 揺する	wobble	102 (60.7%)	nobble (鼻)	63 (37.5%)

4.1.6.1. 一致が優勢な場合

7組中6組(86%)において、英語の意味との一致が不一致を大きく上回っている。感嘆表現の yuck・yippee, 大声を表す yowl においては声に関する音象徴があると言える。同様の意味で用いられる日本語オノマトペ「やったー」「わーい」「いや」「わめく」もわたり音を含んでいる影響もあるであろう。勢いある動きを表す whee・whoosh については、/w/が両唇音であることを考えると噴出を表すのも当然である。また、揺れを意味する wobble に関しては、わたり音が「振動」を表す傾向があるので、期待通りの結果である。(表1参照)

4.1.6.2. 不一致が優勢な場合

唯一不一致に軍配が上がった wiggle-waggle : higgle-haggle は、票差がわずかである。「小刻みに動かす・ゆする」という意味の語で摩擦音/h/と比較するのは難しく、票が割れたのだと思う。

4.2. 一致率からの分析

4.1. で見た通り、一致率は各組において様々である。ここでは、一致率が著しく高い例・低い例に着目する。どの調音様式に目立った一致・不一致率が見られるか、また日英音象徴語を比較し、共通点・相違点を挙げる。

4.2.1. 一致率が高い例

表16 一致率が70%以上の12組

語頭子音の調音様式および調音位置		意味	英語の音象徴		日本語の音象徴
破	両唇	II-1. なぐる・打つ・たたく	biff	131 (78.0%)	バシッ, ビシッ, ボカッ, バン, ピシャッ
		II-2. 吐く・もどす	barf	129 (76.8%)	ゲーッ, ゲーゲー, ゲロゲロ, ウェーッ
裂	歯茎	I-3. 弓を引いて矢を放つ	twang	141 (83.9%)	ビン, ビュン, ビーン, ビョーン, ペン
		I-4. らっぱを吹く	toot	134 (79.8%)	プーッ, プォーッ, ブォーッ
	硬口蓋	I-5. くすぐる時の発声	kitchy	126 (75.0%)	コチョコチョコ
		I-6. むさぼり食う	gobble	145 (86.3%)	ガブリ, ガツガツ, バクバク
摩擦	歯茎 硬口蓋	II-12. 風を切るすばやい動き	shoof	122 (72.6%)	シューッ, シャーッ, ビューン
破擦	歯茎 硬口蓋	II-16. 小鳥のさえずり	chirp	151 (89.9%)	チュンチュン, チッチッ, チーチー
わたり	硬口蓋	I-18. 嫌悪・不快の発声	yuck	129 (76.8%)	ゲー, オエッ, ウヘッ, ギャッ, イヤッ
		II-28. 大喜び・得意・高揚の発声	yippee	119 (70.8%)	ワア, ワーイ, ヒャアー, やったー
	両唇	I-19. 空中をすっと飛ぶ音	whee	133 (79.2%)	ワーイ, ワーッ, ヒャーッ (ホー)
		I-20. 液体の噴出	whoosh	139 (82.7%)	ビューッ, シューッ, シャーッ

英語の音象徴と一致する被験者の回答が70%を超えたのは12組である。(表16参照) そのうち6組(50%)が破裂音で、これらはエネルギーの強い子音である。日英語を比較してみると、両方に破裂音(/p, b, k, g/)が含まれている組ばかりである。破裂性に見られる激しさを日英ともに感じ取っているとと言える。また、わたり音が4組(33%)に高い一致率が出ているのも特筆すべきである。日英語の両方にわたり音(/y, w/)が含まれている組が多い。また1組ずつだが、摩擦音 shoof と破擦音 chirp の場合も日英語に共通の音素が見られる。したがって、この12組では被験者は日本語における音象徴の影響を受けて回答しており、英語の音象徴との一致率が高い結果が得られたと考えられる。さらに、12組中7組が Part I のイラスト問題であり、文章よりもイラストの方が場面状況を理解しやすいということもあろう。

4.2.2. 一致率が低い例

表17 不一致率が70%以上の例

語頭子音の調音様式および調音位置		意味	英語の音象徴	不一致回答		日本語の音象徴
破裂	歯 茎	II-4. ぶらさがる	dangle	wrangle	144 (85.7%)	ブラブラ
摩擦	歯 間	II-10. 平たい板で打つ	thwack	quake	123 (73.2%)	ピシヤリ, バシッ
破擦	歯 茎 硬口蓋	I-13. 恐怖で歯が鳴る	chatter	gatter	129 (76.8%)	ガタガタ, カタカタ, ガチャガチャ
		II-18. サルが叫ぶ	jabber	shabber	123 (73.2%)	キャッキャッ

英語音象徴と一致する回答が低く、不一致が70%を上回ったのは4組である。(表17参照) dangle・thwack・chatter・jabberにおいて、語頭子音の調音様式が破裂・摩擦・破擦の3種で、いずれもエネルギーを多く要する子音である。調音位置に関しては、歯茎・歯間・歯茎硬口蓋の3種で、いずれも口

の前方で生み出される音素である。これだけを見ると、一致率が高くても良さそうだが、対立する不一致の選択肢との兼ね合いを考えてみる。「ブラブラ」と wrangle に含まれる流音 /r, l/ にだらしなさを連想し、「ガタガタ」と gatter を重ねて、日本語のオノマトペの影響と思われる。thwack の /θ/ は被験者にとって聞き取りが難しく、イメージが捕らえにくかったのであろう。jabber : shabber では、/dʒ/ と /ʃ/ は共に歯茎硬口蓋音で調音位置が同じであるため、判断が厳しかったものと思われる。

5. 結

以上、独自で行ったアンケートの結果を調音様式ごとに分類し、表1や先行研究と重なる傾向が掴めた。特に破裂音・摩擦音・わたり音において、英語の音象徴との一致率が高かった。破裂音・摩擦音はエネルギーが非常に強く、わたり音は最も弱い調音様式である。両極端だからこそイメージがとらえやすく、顕著な結果が得られたものと思われる。また、破裂音・摩擦音は音素の種類が豊富で、問題数も多いということもある。全ての調音様式を通して、一致率の高かった語には、日英音象徴に共通の音素が含まれていることもしばしばであった。このことから、音象徴は普遍的であると言えよう。

また注意すべき問題点もある。破裂音・摩擦音・破擦音で激しさの度合いを細かく区別するのは厳しい。/v, θ/ など日本語に本来存在しない音素や、ラ行と /l, r/ や「ふ」と /f/ のように似て異なる音素については判断しづらい。それほどに被験者は母語である日本語に影響を受けているのである。

これらの点を踏まえて、日英音象徴の比較について今後更に研究を行っていききたい。

参考文献

- 城戸真由美. 2002. “Sound Symbolism in English” 修士論文.
- 田守育啓・L. スコウラップ共著. 1999. 『オノマトペ——形態と意味——』くろしお出版.
- 日本英語音声学会編. 2005. 『英語音声学辞典』成美堂.
- Hamano, Shoko. 1986. *The Sound-symbolic System of Japanese*. Ph.D. dissertation, University of Florida.
- 藤田孝・秋保慎一編. 1984. 『和英擬音語擬態語翻訳辞典』金星堂.
- 松田徳一郎監修. 1985. 『漫画で楽しむ英語擬音語辞典』研究社.